

事業名	音楽の魔法コンサート(こども向けインクルーシブクラシックコンサート)
【当初計画の事業目的(取組課題)と実施効果】	
【実施目的】	
①障がい児と健常児が共に参加し、共通の体験を通して各々が「多様性」を体感することにより、寛容な社会の実現を目指す。	
②こどもたちの「体験の格差・機会の格差」をなくす。	
③こどもたちの様々な音楽的事象への関心を広げる。	
④こどもたちへクラシック音楽(伝統芸術)を継承し、普及する。	
⑤障がいのあるこどもと親に、気軽に足を運ぶことができるクラシックコンサートを提供する。	
【実施効果】	
①当コンサートにおいて、多様なこどもたちが共に「音楽」という一つのテーマを通して一体となる経験を行うことができる。「多様性」を体感することにより、結果的に寛容な社会の実現に繋がっていくことが期待できる。	
②こどもたちが同じ場で同じ体験をすることで、「障がい」という意識の壁を取り払い、「障がいゆえにできない」という本人の意識や周囲の思い込みを変えることができる。「意識の変革」「学びの平等」が期待できる。	
③様々な音楽体験をすることにより、多角的に音楽への興味関心を引き出すことができる。	
④分かりやすい演出を加えるプログラムにより、クラシック音楽の真の楽しさを理解することができる。	
⑤「出入り自由、踊っても歌っても良いコンサート」とすることで、障がい等の理由により普段コンサートの場に足を運ぶことを躊躇する親子に、気兼ねなく音楽を楽しむ場を提供することができる。	

【実施結果(成果)】
1. 今年度コンサートの主な企画 ○ こどもプロデューサーの募集 公募により、今年度7名のこどもプロデューサーが活動を行った。 プロデューサー年齢内訳(小3:1名、小5:2名、小6:1名、中2:2名、中3:1名) 当日の役割分担(受付:2名、案内:1名、照明:2名、タイムキーパー:1名、司会:1名) ・活動 7月:オリエンテーション(第1回):「プロデューサーは、どんな仕事？」 練習の見学をし、プロデューサーの仕事についてプロのプロデューサーの団員から説明を受けた。 8月:オリエンテーション(第2回):「誰もが楽しめるコンサートにするには？」 重度障害児のお母様、福祉事業所で働く方から、お話を聞いた。 9月:練習見学、打合せ(プログラム選定、お客様に喜んでいただく工夫について) 10月:打合せ、制作(写真スポットの制作) 11月:手話の歌の練習(Lineビデオ通話にて) 12月:練習見学、手話の歌のオーケストラとの合わせ練習

○「ピーターとおおかみ」ナレーター募集

8月のコンサートプログラム「ピーターとおおかみ」の登場人物のナレーターを参加者より募集し、7名の応募があった。

(ピーター:3名、あひる:2名、小鳥:1名、猫:1名)

こどもたちの役割を決めた上で各々が担当する台詞をメールで送り、事前にストーリーと台詞に目を通していただいた。

当日のリハーサルでは全員で30分ほど読み合わせを行った。

ナレーターのこどもたちは各自で担当する動物のお面を作り、着用してナレーションを行った。

2. 音楽の魔法コンサート

●8月2日(日)13時30分開演(15時終演) ミューザ川崎市民交流室

主催者側参加者 :16名

来場者(定員100名):101名(応募人数137名のところ)

チラシ枚数 :1000枚

※配布先 :川崎市内の各公共施設、川崎市内の支援学校、特別支援学級、療育センター、相談センター、放課後デイサービス・ダンウェイジュニア GU!、その他協力者各位

【プログラム】

音楽の魔法コンサート Vol.8 ピーターとおおかみ

(演奏楽器:バイオリン、ビオラ、チェロ、コントラバス、フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、ホルン、タンバリン、ピアノ)

第一部

- ①S.プロコフィエフ ピーターとおおかみ(こどもたちのナレーターによる)

休憩

・楽器体験コーナー:全ての楽器の体験

- ②G.ロッシェニ ウィリアム・テル序曲より「スイス軍の行進」
③W.A.モーツァルト アイネ・クライネ・ナハトムジークより第1楽章
④G.ホルスト 惑星より「木星」
⑤八木節:(団員が獅子舞を披露し会場内を回る)

●12月8日(日)10時開演(11時30分終演) 川崎市総合自治会館ホール

主催者側参加者 :18名

来場者(定員100名):151名(応募人数157名のところ)

チラシ枚数 :1000枚

※配布先 :川崎市内の各公共施設、川崎市内の支援学校、特別支援学級、療育センター、相談センター、その他協力者各位

【プログラム】

音楽の魔法コンサート Vol.9 MagiChristmas☆[こどもプロデューサー企画コンサート]

(演奏楽器:バイオリン、ビオラ、チェロ、コントラバス、フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、ホルン、タンバリン、ピアノ)

第一部

- ①J.ウィリアムズ ハリー・ポッターより「ヘドウィグのテーマ」
②E.グリーグ ペール・ギュント組曲より「山の魔王の宮殿にて」
③J.パッヘルベル カノン
④P.I.チャイコフスキー くるみ割り人形より「行進曲」
⑤P.I.チャイコフスキー くるみ割り人形より「花のワルツ」

休憩

・楽器体験コーナー:全ての楽器の体験

- ⑥L.アンダーソン そりすべり
⑦久石譲 となりのトトロより「さんぽ」
⑧[手話で歌おう] 小さな世界(こどもプロデューサーと一緒に)
⑨[手話で歌おう] サンタが街にやってくる(こどもプロデューサーと一緒に)

⑩ジングルベル：会場のこどもたちにエッグマカスを配布し、エッグマカスを自由に鳴らしながら歌う
サンタからのプレゼントコーナー

☆こどもプロデューサーの発案

①クリスマスツリーの「写真スポット」を受付前に設置する

プロデューサー達でクリスマスツリーの写真スポットを画用紙で作成し、受付前に設置をした。
予約して下さったお客様にツリーの飾りを折り紙で作ってきていただき、当日にツリーに貼ってもらった。

・発案の理由

「コンサート当日の前から、参加するこどもたちがコンサートに向けてワクワクすることができる」

「来て下さったみんなが作った世界に一つだけのツリーができる」

②クリスマスソングを手話で歌う

「小さな世界」「サンタが街にやってくる」のサビの部分を手話をつけて歌う。

発案したプロデューサーが練習動画を作成し、プロデューサー皆で共有して各自で練習を重ねた。

プロデューサー皆で Line のビデオ通話で手話の確認も行い、本番前日の練習でオーケストラとリハーサルを行った。

当日は、発案したプロデューサーが手話の意味を解説しながら会場のお客様と手話の練習を行い、プロデューサー全員がステージ上で見本となって皆で手話をしながら歌った。

・発案の理由

「聴覚障がいの子どもたちも楽しめる」

【アンケート：こどもプロデューサーの企画について】

●参加した全てのこども達が楽しめる、とても優しい素敵なひと時でした。

大人が何か言わなくても、こどもプロデューサーが困ってそうな人に声をかけたり、進んで行動していてとても感心しました。
みんなで手話をやり、一つになったなと温かい気持ちになりました。

とても綿密に企画をされた事と思います。素晴らしいかったです。ありがとうございました。

●クリスマスツリーの飾りを折り紙で作るところから、私達親子はコンサートに参加していて、ワクワク楽しみでした。

当日はツリーの前での写真撮影も楽しかったです。

手話の歌、食い入るように娘は見てました。プロデューサーの皆さんとっても説明も上手でした。

コンサートが終わった今でも、娘と一緒に手話で歌ってます。

●こどもプロデューサーの皆さんの活躍が一番印象に残っています。それぞれのキャラクターを活かして役割分担をされていて、初の試みとは思えないほど素晴らしい活躍ぶりに感動いたしました。

【実際の効果と課題】

1. 実施効果

①障がい児と健常児が共に参加し、共通の体験を通して各々が「多様性」を体感することにより、寛容な社会の実現を目指す

車椅子の来場者は、8月が1名、12月が2名。

障がいのある子どもたちは、8月、12月ともに3～4割程度かと思われるが、昨年度より多く見受けられた。

こどもプロデューサー7名のうち2名が特別支援学校に在籍しており、彼らが主体的にコンサートに携わったことにより、より一層「多様性を認め合う」という当コンサートのコンセプトがお客様に伝わったことと思う。

また、5か月間にわたりコンサートの企画に携わったこどもプロデューサーたちにとって、「真の多様性」について大きな学びを得られる機会となった。

【アンケートより】

●格差のない音楽会を目指すとの事で、障害のある方々とこの場を一緒に参加することができ、光栄です。子供の相手をしてくれたり、優しく対応してもらい、触れ合っていました。差別のない社会を目指すために、このように一緒に参加できるコンサートがもっとあればいいのと感じます。

●一緒にこのコンサートの場にいらせてもらえることに感謝の気持ちが溢れてくれような時間でした。

●2022年のクリスマスコンサートの時より、色々な子どもたちが関わっている様子を見て、そういう意味でも素晴らしいコンサートだと思いました。ありがとうございました。

②子どもたちの「体験の格差・機会の格差」をなくす

こどもプロデューサーが積極的に車椅子の方や体の不自由な方に声をかけており、お客様から「障がいがあっても困難なく楽しく過ごすことができた」と感謝の声を複数いただいた。

楽器体験の際には、聴覚障害のお子さんがバイオリンの振動を感じられるように楽器に触れてもらうなど、団員たち各々が様々な配慮を行っていた。

また、12月にはこどもプロデューサーの発案による「手話の歌」が大変好評で、会場が一体となって手話をしながら歌うことができ、「聴覚不自由な子どもにも楽しんでもらいたい」というプロデューサーの思いが成功につながった。

【アンケートより】

●機会や体験の格差をなくすという目的に賛同いたします。子どもたちの可能性を発見出来る機会になっているのかなと感じました。何かできることがあればぜひお手伝いさせてください。ありがとうございました。

③子どもたちの様々な音楽的事象への関心を広げる

楽器体験コーナーが、子どもたちにとって音楽へ関心を持つきっかけになったと感じる。

楽器体験コーナー(休憩中)の後に第二部の演奏を聴くことで、楽器の音色に更に興味関心を持って鑑賞できたと思う。

【アンケート】

●楽器体験コーナーも刺激になったみたいです。帰宅してからすぐに我が家にあるウルクレレをバイオリンのように構えて立ち、演奏する真似をしていました。本物に触られる体験は充実していたと思います。

●初めて楽器にも触らせていただけて、少しでもこれからの興味につながっていくと嬉しいです。親としても、有名な曲ばかり演奏してもらえたのでとても楽しくすごせました！

●楽器体験では演奏者の方達がとても丁寧に持ち方、弾き方などを教えてくださり子供にとって良い経験をさせていただきました。大切な楽器に触らせていただき感謝です。

●とても感動しました。娘はまだ1歳のためコンサートに興味があるかも分からないけれど、本物の音楽、空気を伝って直接本物に触れて欲しいと思い参加しました。

生の演奏はやはり心に響くものがありました。娘もさんぽでは楽しそうに足踏みをしていました。小さな世界では手話も真似して一緒にすることができました。まだ話せない娘とのコミュニケーションが手話を通じてとれたようでとても嬉しかったです。

④子どもたちへクラシック音楽(伝統芸術)を継承し、普及する

両コンサートと共に有名な曲を選曲したため、クラシック音楽への親しみが湧きやすかったと思われる。

特に、こどもプロデューサーが選曲をした12月のコンサートは大人と違う目線での選曲となり、よりバリエーション豊富な楽しい

プログラムとなった。

【アンケート】

- 4 歳児と一緒に参加しました。生演奏のコンサートはなかなか行けませんでした。こちらは小さな子供ばかりで、歩き回ったり声を出したりも自由で伸び伸びと観覧できました。
- ピーターとおおかみがとても 4 歳にとって面白かったようで、家に帰っても思い出話をしていました！0 歳も音楽に合わせて身体を揺らして楽しんでいました
- 子供心がとてもよくわかっているなと感じるコンサートで、2 歳の娘の初めてのコンサートデビューがとても素敵な思い出にのこるものになりました。

⑤障がいのあることもと親に、気軽に足を運ぶことができるクラシックコンサートを提供する

障がい児のリピーターが徐々に増えてきたこともあり、クチコミでの障がい児の来場数が増えた。

こどもプロデューサー、ピープルデザインの就労体験のお子さん、その保護者のみなさんのお手伝いにより、障がいのあることもたちへの配慮がなされ、気持ちよくコンサートに参加していただけたと感じる。

【アンケート】

- 肢体不自由の子は、ピッコロの音が好きなようで、声をあげて喜んでいました。また、来年も観覧したいです。
- 息子は普段、慣れない場所や大勢の人に囲まれた環境を好まないのですが、楽器体験では笑顔が見られ、楽しそうでした。演奏が終わるたび、自ら拍手もするようになり、私も連れてきて良かったな、と思いました。

2. 今後の課題

①スタッフ数

当日会場での受付や案内スタッフは、以下の人数で対応した。

- ・ 8 月 : ピープルデザインさんの就労体験者 3 名と保護者 3 名
- ・ 12 月 : ピープルデザインさんの就労体験者 2 名と保護者 2 名、こどもプロデューサー 7 名と保護者 3 名

12 月のコンサート終演後に、こどもプロデューサーの保護者より「今後は大人のスタッフをもう少し増やした方が、こどもプロデューサーへの声掛けや来場者の案内がよりスムーズになるのではないかと」のご意見をいただいた。

当日は、団体メンバーは会場内に目を配ることが難しいため、今後はボランティアスタッフを募ることを検討したい。

②来場者数

両コンサートとも、想定以上に多くのご予約をいただいた。

- ・ 8 月 : 来場者(定員 100 名): 101 名(応募人数 137 名のところ)
- ・ 12 月 : 来場者(定員 100 名): 151 名(応募人数 157 名のところ)

12 月においては、リピーターへの通知、情報アプリ、SNS、HP での通知などで、通知開始から 5 日で満席となり、受付を停止した。停止後も立ち見でのご希望が数件あり、全て承った。

結果的には、多くのこどもたちがプレイマット上で観覧したため、立ち見にはならなかった。

お客様アンケートでは、一日 2 公演のご希望をいただいております。今後は公演回数やホールの収容人数なども検討していきたい。当コンサートの性質上、団員と来場者が近い距離で楽しめることを原則とし、良い方法を探していきたい。

③安定した継続

委託事業として開催させていただいた経験を基に、今後は自立して運営できる方向を探していきたい。

3 年間の委託事業を通して、お客様のニーズに合致するコンサートを模索し、開催することができたと感じる。

お客様のニーズに応えるコンサートを安定して継続できるよう、ファンドレイジングの手法を様々な検討していくことが必要だと考える。

3. 今後の展望

①市民に開かれたコンサート

当コンサートの目的を達成するために、より多くの市民に開かれたコンサートとしていきたい。

ボランティアスタッフの公募を行い、多くの人々に携わっていただけるコンサートとなるように務める。

また、協力いただける団体に声をかけ、多くの視点で目的に適ったコンサートを作っていきたい。